

国際会議から 第11回車輪／レール接触に関する国際会議 (CM2018)

本国際会議は、車輪／レールの境界領域に特化した唯一の会議で、車輪とレールの接触部に生じる諸問題に対して、世界中の研究者が発表、討議する貴重な場となっています。1982年に第1回がカナダで開催され、それ以後、北米やヨーロッパ、アジアの都市で3年ごとに開催されました。今回で11回目を迎え、参加国数17カ国、参加者数241名、そのうち鉄道総研から7名が参加しました。

3日間の発表会で、基調講演2件、口頭発表114件、ポスター48件のほか、車輪／レールの接触問題に関する研究で世界的権威であったケンブリッジ大学のK.L.Jonson教授とデルフト工科大学のJ.J.Kalker教授を偲ぶ記念講演6件もありました。基調講演では、戦略的レール断面形状の形成と高速鉄道の摩耗問題が取り上げられました。一般講演では、車輪とレールの相互作用により発生する摩擦、摩耗、損傷、騒音などの問題のメカニズム解明、さらにIT技術の発展にともなう計測と状態監視手法の研究が紹介されました。筆者は「摩擦と粘着」のセッションで落葉による車輪の空転・滑走の再現試験を発表し、その対策に関する日本の取り組みについて質疑応答がありました。テクニカルビジットでは、デルフト工科大学におけるエコハウスや電気自動車の取り組み状況を見学しました。



デルフトの街中

滞在中には、デルフトの街中に自転車の多いことに驚きました。とくに通勤や通学の時間帯になると、自転車が川のように流れて来る光景が目につきます。健康的、かつ環境に優しい交通手段を大いに利用する国民のエコ意識の高さに改めて感心しました。



陳 樺
鉄道力学研究部
軌道力学研究室 室長

正式名称：11th International Conference on Contact Mechanics and Wear of Rail/Wheel System
 開催国：オランダ(デルフト)
 期間：2018/9/24～27
 主催：デルフト工科大学
 開催頻度：3年に1回
 次回開催予定：2021年
 オーストラリア(メルボルン)
 ホームページURL：<https://cm2018.org/>